

## 生物科学学会連合 第 14 回定例会議 議事録

日 時：2016 年 10 月 8 日（土）14:00～16:00

場 所：東京大学理学部 2 号館 2 階 223 号室（東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学本郷キャンパス内）

出欠状況：

出席（加盟団体）：

運営委員

中野 明彦（生科連 2015-2016 代表）

浅島 誠（生科連副代表） 宮島 篤（生科連副代表） 入江 賢児 石野 史敏

団体代表

宮下 直\*（個体群生態学会）

東原 和成（日本味と匂学会）

菱田 卓（日本遺伝学会）

高橋 秀幸（日本宇宙生物科学会）

仲嶋 一範（日本解剖学会）

大杉 美穂（日本細胞生物学会）

本間 さと\*（日本時間生物学会）

久和 茂（日本実験動物学会）

綿野 泰行（日本植物学会）

野崎 久義（日本植物形態学会）

寺井 洋平（日本進化学会）

竹居光太郎（日本神経化学会）

和田 圭司（日本神経科学学会）

後藤由季子（日本生化学会）

宮下 直\*（日本生態学会）

都築 功（日本生物教育学会）

佐藤 竜馬（日本生物物理学会）

渋谷まさと（日本生理学会）

後藤 祐児（日本蛋白質科学会）

岡 良隆（日本動物学会）

小柴 和子（日本発生生物学会）

尾崎まみこ（日本比較生理生化学会）

妹尾 啓史（日本微生物生態学会）

深川 竜郎（日本分子生物学会）

（計 24 団体）

欠席（加盟団体）： 日本植物生理学会、日本農芸化学会、日本比較内分泌学会、  
日本分類学会連合、日本免疫学会、日本薬理学会

（計 6 団体）

（加盟合計 30 団体）

出席： 渡邊雄一郎（会計監査委員）

小林 武彦（ポストク問題検討委員長）

出席（日本学術会議）：

本間 さと\*（基礎医学委員会会長）

出席（オブザーバー）：

北里 洋（自然史学会連合）

岸本 健雄（日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会 合同動物科学分科会）

馬渡 駿介（日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会 合同自然史財の保護と活用分科会）

（計 2 団体）

（敬称略、団体名 50 音順）

事務局 村田 英樹

議題・報告：

1. 前回議事録の承認

第 13 回定例会議の議事録案が確認され、原案通り承認された。

2. 平成 29・30 年度代表の選出について

中野代表より、平成 29・30 年度代表の選出について、まず規約の説明がなされ、引き続き規約に基づき推薦期間中に推薦されたのは中野代表のみであった旨報告がなされ、中野代表の再任が承認された。

中野代表より改めて挨拶がなされ、副代表ならびに運営委員については、次回定例会議までに選任する旨説明がなされた。

### 3.平成 27 年度会計監査報告

渡邊会計監査委員より、資料に基づき第 13 回定例会議の際に承認されている平成 27 年度会計報告について、7 月 14 日に深田吉孝、渡邊雄一郎両会計監査委員による会計監査が行われ、監査の結果、正確妥当なものであるとの監査報告がなされ、改めて平成 27 年度会計報告が承認された。

### 4.平成 29 年度予算案について

事務局より、資料に基づき平成 29 年度予算案について、前年度に比べ主に活動経費を増額し、当期の収支が 150 万円となる旨説明がなされた。協議の結果、原案通り承認された。

### 5.合同大会の開催

中野代表より、資料に基づき 2017 年 12 月に神戸で日本分子生物学会と日本生化学会が主催し、15 の関連学会が協賛（2016 年 9 月時点）する合同大会（生命科学系学会合同年次大会）が開催される予定であるとの報告がなされ、画期的な試みであり重要な第一歩であること、また生科連の趣旨とも合致しており、さらに大きなコンソーシアムになることを期待しているとの説明がなされた。

引き続き、日本分子生物学会の深川竜郎氏より、今回の合同大会を開催した後に評価やフィードバックを行い、今後につなげて行きたいとの意見が述べられた。

### 6.関連国際会議について

中野代表より、国際生化学・分子生物学連合（IUBMB）について、3 年毎に国際会議を開催しているが、次回（2018 年）は韓国で開催予定であり、日本としても積極的に関与していきたいとの報告がなされた。

### 7.IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

都築功国際生物学オリンピック日本委員会委員（日本生物教育学会副会長）より、資料に基づきベトナムで開催された第 27 回国際生物学オリンピックにおいて、日本から参加した高校生 4 名が金メダルを含むメダルを獲得したこと、また、次回はイギリスで開催予定であり、これに向けた日本代表への応募が全国より約 4,000 名あり、7 月に予選を行い、2017 年 3 月に最終選抜が行われる予定であるとの報告がなされた。

また、浅島副代表（国際生物学オリンピック日本委員会委員長）より、現在、生物学を含む 7 分野における科学オリンピックは文部科学省が統括しており、2020 年には日本において国際生物学オリンピックの開催（長崎国際大学）が決定しているが、それに向けての準備段階において、予選における試験問題の作成、試験会場の提供、運営資金の援助などが課題となっている旨説明がなされ、生科連に対しても協力依頼がなされた。

### 8.日本学術会議関連報告

中野代表より、資料に基づき、9 月 12 日に開催された日本学術会議主催の学術フォーラム「若手生命科学研究者のキャリアパスについて考える～卓越研究員制度の現状と未来、そしてさらなる可能性～」(生科連共催、日本分子生物学会後援)の概要について報告がなされた。

引き続き小林ポスドク問題検討委員会委員長より、資料に基づき、学術フォーラムの講演内容ならびに平成 28 年度卓越研究員事業における生物系の申請状況などについて報

告がなされ、併せてポストク問題に関して週間東洋経済の掲載記事の紹介がなされた。この中で卓越研究員制度については、まだ制度が始まったばかりであり、今後改良しながら継続していきたいので、意見や要望があれば寄せて欲しいとの依頼がなされた。

また、中野代表より、資料に基づき、11月29日に開催予定の科学研究の倫理の確立を目的とした学術研究フォーラム第8回学術シンポジウム（学術研究フォーラム、日本学術振興会主催）の紹介がなされた。

引き続き中野代表より、資料に基づき、「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会」の報告内容について説明がなされ、この中で国立大学の財政基盤の弱体化に伴う大学間格差の拡大が問題のひとつとされ、日本のアカデミーをどのように支えていくか、基礎研究の重要性について意見が述べられた。

#### 9.熊本地震の対応について

中野代表より、資料に基づき、4月に発生した熊本地震への生科連としての対応について報告がなされ、4月28日付にて生科連としての声明を発表し、必要な緊急支援を政府に要望するとともに、加盟団体を通じて被災状況の確認ならびに被災者への支援状況の調査を行った旨説明がなされた。

また、協力された加盟団体に対して謝意が述べられた。

#### 10.国立自然史博物館について

日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会 合同動物科学分科会の岸本健雄氏より、資料に基づき、第12回定例会議で報告された事項により、5月17日に「国立自然史博物館設立の必要性」についての提言を日本学術会議からなされた旨報告がなされた。

また、岸本氏ならびに日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会合同自然史財の保護と活用分科会の馬渡駿介氏が、本提言における博物館の建設候補地である沖縄県を訪問し、提言の報告を行った旨説明がなされた。

引き続き馬渡氏より、国立自然史博物館設立の意義について補足説明がなされ、引き続き生科連に対して協力依頼がなされた。

中野代表からは引き続き国立自然史博物館設立に向けて、生科連として協力していきたいとの意見が述べられた。

#### 11.その他

1) 日本生物教育学会の都築功氏より、資料に基づき、中央教育審議会において学習指導要領の改訂を検討しており、その主な内容について報告がなされた。

引き続き都築功氏より、資料に基づき、日本生物教育会からの次期高等学校理科（生物）学習指導要領改訂に関する提言について報告がなされた。

2) 中野代表より、今後の検討事項として、(1)生命科学における基礎研究の重要性について問題提起していくこと、(2)商業出版に依存しない、日本としての強力なジャーナルをまとめていくことを挙げて、次回以降引き続き検討していきたいとの抱負が述べられた。

中野代表より、次回の定例会議開催日については2017年3月頃を目途としているが、新たな副代表ならびに運営委員が決定した後に、改めて加盟団体宛に日程調整をして決定したい旨提案がなされ了承された。

以上